

# ま と め

## 防災教育の成果と課題について（○成果●課題）

- 各校では、防災教育年間指導計画を作成することにより、教科指導・学級指導・全体指導において系統的・計画的な指導が進められ、教育内容が充実するとともに方向性が明確になった。
- 各校においては避難訓練を実施する際の想定場面が、授業時間中のみならず、休み時間や放課後の時間帯を想定する学校が増えており、多様な場面における避難行動の在り方指導され、児童生徒の判断力の向上に役立っている。
- 現在各校においては、防災教育の時間数は限られており、その確保が課題となっている。今後、各校における教科指導や防災避難訓練の在り方等を整理してその内容や実施方法を検討し、実践的な防災教育を支援する教材（指導手引等）の作成が必要である。
- 防災教育学校訪問により、訪問校の現状を把握することができたが、訪問校数が限られているため、教育庁内での連携を図り、機会を増やす必要がある。
- 各校においては、地域社会と連携した防災教育の重要性は認識されているところであるが、連携の円滑かつ効率的な実施についての支援を求める声が多いため、今後県教育委員会の事業等を通して、実施方法等の具体的な内容を示していく必要がある。

## 安全安心のための学校給食環境整備事業

### 成果と課題について（○成果●課題）

- 3482回の「学校給食食材の事前検査」と県及び給食実施者の検査結果公表の積み重ねにより、流通している食材の安全性が確認され、保護者や幼児児童生徒の安心が確保された。
- 検査食材の品目に一部偏りが見られたため、次年度の検査実施に当たっては、地場産の活用率を勘案した上で県内産・県外産の食材を選定する等、検査食材が一部の品目に偏らないよう、その選定にあたって配慮すべき事項等について給食実施者等に周知する必要がある。
- 32回の学校給食モニタリング検査（1食まるごと検査）により、これまで同様の学校給食の提供を受けても、放射線による児童・生徒への健康影響はきわめて小さいことが分かった。
- 学校給食を提供する学校・調理場等において両検査結果の情報を基に、食材の産地を含め、品質を十分吟味した上で食材の選定を行い、安全の確保に努めている。